

| | | | | | |
|--------|---|---|-----------|-------|--------------------|
| 学校教育目標 | 「ともに学び ともに高め合い ともにかがやく」 ・すすんで学び合い、考えを深める子(知)(開) ・自分も友達も大切にし、集団の中で自分らしさを発揮できる子(徳)(公) ・健康に関心を持ち、心身共に成長する子(体) | | | | |
| | 創立 37 周年 児童生徒数: 581 人 | 学校長 高松 一彦 主な関係校: 中川西中学校 都筑小学校 荏田小学校 すみれが丘小学校 | 副校長 加藤 真理 | 2 学期制 | 一般学級: 19 個別支援学級: 4 |

| | | |
|---|--|--|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | ○○中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| ・自己実現に向けて、自主的に考え、課題解決をする力 ・自分らしさを発揮するとともに多様性を尊重して協働する力 ・相互に考えを伝え、高め合い、合意形成する力 | ・中川西中学校 ・都筑小学校 ・荏田小学校 ・すみれが丘小学校 | ・つながりの中で、認め合い、励まし合い、高め合う子 ・つながりの中で、自らの課題を見つけ、解決しようとする子 ・つながりの中で、あいさつをしっかりする子 ○授業交流を通して、小中一貫カリキュラム改善を組織的に推進し、共通理解を深める。 ○生徒指導専任と児童支援選任との連携を強め、児童・生徒の問題行動を未然に防止する環境づくりを目指す。 ○児童と生徒の交流を行うことにより、小・中学校間のギャップを少なくする。 |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | ○SDGs(持続可能な開発目標)の視点を軸に、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」を通じて、地球の未来を語り合い、すべての人が豊かな暮らしを送ることができる社会の担い手を育てます。 ○自分も友達も大切にでき、一人ひとりが自己有用感をもてることを目指した、クラス運営・学年運営、異学年交流等を行います。 ○健康な心身をつくるため、家庭・地域と連携し、生活習慣や運動習慣を形成します。 ○地域での豊かな体験を通して、まちの一員としての自覚をもち、まちをよくしようとする態度を育みます。 ○一人ひとりを大切にし、個に応じた「成長」を支援します。 |
|--------|---|

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|----------------|-------------|---|
| 知 | 授業改善 | ①重点教科である「道徳科」を中心に、自己を見つめて考えを深める授業づくりを研究する。子ども自らが日常生活の中で問題意識をもち、問題解決的な学びを展開できるような工夫を施す。②今年度も人・もの・ことと豊かに関わる場を工夫し、相手意識や目的意識をもった活動を取り入れた授業を行う。 |
| 徳 | 人権教育 | ①学級だけでなく、学年、たてわり、クラブ、学校行事など、多様な集団の中で学習・活動する機会を増やし、他者も尊重する意識を高める。②道徳の授業やSDGsの視点を軸に、すべての人が心豊かな暮らしを送ることができる社会について考え、実行しようとする態度を育てる。 |
| 体 | 健やかな体の育成 | 体力向上やけがの予防などの課題に対して、学校保健委員会や運動委員会の活動を通し、児童が本校の健康課題について意識し、どのようにすれば課題を解決できるのか考える機会を充実させ、対応を検討し、課題解決を目指す。 |
| 公開 | 社会に開かれた教育課程 | ①発達段階に応じて、学んだことを生活や将来に結び付け、働くこと、豊かに生きることにつなげて考えられるようにする。②特別活動や総合的な学習の時間等で、出前授業や施設見学、交流など、体験的な活動を取り入れる。③地域等主催のイベントを周知し、まちの一員としての自覚を育む。 |
| いじめへの対応 | B児童指導 | ①子ども会議等の子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取組を行う。②月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③毎週の職員打ち合わせで情報共有と共通認識のもと、毎日の健康観察や児童アンケート等により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。 |
| 人材育成・組織運営(働き方) | 教務 | ①重点研究「道徳科」の授業研究会を全教員が年1回行うなど、教職員がキャリアステージに応じて研鑽を積む機会を確保する。②校内初任研やメンターチームなどを活用し、教職員が日常的に教え合える環境を育む。③すぐるやミライムの活用により情報共有を組織的に行い、多様な働き方を受け入れる体制を整える。 |
| 特別支援教育 | B児童指導 | ①特別支援教室の環境整備を全教職員で行い、ユニバーサルデザインについて理解し、学びや環境のユニバーサルデザイン化を推進する。②児童一人ひとりの理解に努めて常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく、適切な支援を行う体制づくりをする。ICTの効果的な活用について全教職員で検討し、共有する。 |
| 児童指導 | B児童指導 | ①「中川西スタンダード」「中西ユニバーサルデザイン」が、現在の社会情勢に沿うものであるか検討し、児童の意見等も取り入れることを視野に入れ、分かりやすい表現に直していく。②職員会議において児童理解の内容を扱うことを定例化し、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童の思いに寄り添って学習の支援の在り方を探り、ICTも活用しながら学びが継続できるようにする。 |
| 教育環境整備 | 総務 | ①教育環境のユニバーサルデザイン化を進め、安心して学習できる環境を整備する。②GIGA端末の日常的な持ち帰りに向けた環境整備を行う。③給食室改修その他工事が安全に実施されるよう調整し、工事期間中も学校教育活動が円滑に実施できるようにする。 |
| 担当 | | |